

平成29年度 地域連携活動報告書

連携先名称	小菅村	担当教員	地域創成科学科 宮林茂幸
活動状況	継続中	関連教員	杉野卓也、矢野加奈子、石坂真悟（小菅村）
協定締結日	平成18年10月20日	活動資金	補助金、研究室予算、その他（学生の自己負担）
活動内容	<p>特別講義（源流大学基礎講座D）と（源流大学応用講座E）における実習（1泊2日）を3~4回実施（述べ総数1500名）。また、地域デザイン学研究室では、人と自然が共生する豊かな暮らしを導く「地域づくりの企画・政策・仕組みづくり・活動に関する理論」を『地域デザイン学』と位置づけ、実践的な研究に取り組みました。2017年8月に2泊3日で実習を実施。多摩川源流・山梨県小菅村で「地域資源を活かしたアイデアづくり」のワークショップを行った。山梨県小菅村は、多摩川の源流部に位置しており、全てを秩父多摩国立公園に指定されている。</p> <p>そこで、地域デザイン学研究室では、小菅村の地域再生を目標とした「地域資源の抽出と地域資源活用のアイデア」を提案するため、学生が山村で暮らす結（ゆい）共働の体験をしながら、地域資源の調査及び活用のあり方について3日間のワークショップを行いました。</p>		
活動成果	<p>初日）山村の暮らしと生業を守る仕事の一つである鎌の種類と用途を学び、「鎌研ぎ」を行った。午後は宮林教授が「地域再生論からみた農業・農山村における地域資源のとらえ方」について講義を行った。そして、小菅村長作地域の文化的資源である長作観音堂の維持管理作業を行った。また、小菅村長作地域の現地調査を行い、針葉樹林の中にある獣道とイノシシのフンを確認し、長作地域の鳥獣被害実態や、長作観音堂をはじめとする羽黒山、出羽山、鳴海山につながる御鷹神社や民話等の文化的資源を調査。</p> <p>2日目は長作地域住民と共に、長作地域のミツバツツジを鹿による被害から守るため、鳥獣被害防止ネットの展張作業を実施。午後は、地域資源調査のため農家に伺い集落調査を行った。2日目、小菅村村長、村民と学生との親睦会では地域の活力につながる交流となった。</p> <p>3日目は、入江准教授が、「地域資源の見る・観る・診る」の講義を行った。1班は、村民との交流を通じて「人」という資源に注目。情報化社会の中で小菅村で暮らすライフスタイルや近年小菅村で増えているライダーの観光客を対象にした新しい村づくりを提案。2班は、若者の自己実現という視点から、若者が夢を持ち楽しく過ごすために小菅村を回遊する未来要素図を提案。3班は、長作観音堂の安産祈願から、子供が生まれた家族のライフステージに合わせた都市農村交流のあり方を提案した。</p>		
課題・改善点	<p>地域の高齢化が進み、源流の優れた伝統芸能や手わざ、自然を読む知恵が消滅の危機に瀕している。また、特別講義は、学生の自己負担によっている。</p>		